

平成30年7月豪雨災害に係る男女共同参画の視点からの
避難所運営等の災害対応について

年月日	内 容	備 考
H30. 7. 10 (金)	男女共同参画の視点からの避難所運営等の災害対応について、「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組方針（避難所関連部分抜粋）」を各市町に通知	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所チェックシート ○女性や子育て家庭に配慮した避難所の開設 ○男女共同参画の視点に配慮した避難所の運営管理
H30. 7. 25 (水)	大規模避難所（西予市野村小学校、宇和島市吉田公民館）を視察	<p>【野村小学校】避難者 100 名が体育館を利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの避難所が統合され、地区ごとにエリアが分かれている。 ・食事用エリアで談話している人がいる。 <p>【吉田公民館】避難者 64 名が2階大ホールを利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉田公民館では、自発的な女性主体の運営となった結果、女性専用物干場や更衣場所の確保、高齢者が多いため体調確認ができるよう高さの違うパーテーションの設置など柔軟な避難所運営がなされていた。
H30. 8. 3 (金)	避難所等におけるDV及び性被害の相談機関の周知について、各市町にチラシ送付	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の掲示板に掲載依頼。
H30. 8. 20 (月)	<p>大洲市総合福祉センター視察</p> <p>※大洲市総合福祉センターは、喜多地区避難所であると同時に大洲市災害ボランティアセンターとなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難者は現在7世帯（14名【男5名、女9名】）3階の交流室（畳部屋）と集会室を活用。 ・1階が浸水したが、水源（五郎）は確保されており、当初から水の心配はなかった。総合福祉センターには、老人・身体障害者デイサービスセンター、保健センター、ボランティア支援部門等があり、大洲市の保健福祉の総合的な拠点施設となっており、入浴、トイレ等避難者に対する設備は充実している。 ・避難所等におけるDV及び性被害の相談機関の周知について、各市町に送付したチラシの掲示が見当たらなかったことから、チラシを渡し、掲示板への掲載を依頼。 ・ボランティアの受入は、募集範囲は県内。お盆以降、平日40～50名、週末80～90名程度で推移しており、現在、需要は満たしている。

<p>H30. 8. 20 (月)</p>	<p>えひめ豪雨災害・支援情報・共有会議 (オブザーバー参加)</p> <p>※事務局：特定非営利活動法人 えひめリソースセンター</p> <p>・理事長：竹内よし子 中間支援組織、松山市</p>	<p>・情報提供 (県、市、県社協、市社協)</p> <p>○愛媛県災害ボランティアセンターについて</p> <p>○県内の災害ボランティアセンター (宇和島市、大洲市、西予市) について 等</p> <p>・活動情報共有 (支援団体の活動報告)</p> <p>○うわじまグランマ…炊き出し、支援物資提供</p>
<p>H30. 10. 4</p>	<p>吉田公民館で避難所運営に関わった女性等からヒアリングを実施</p>	<p><u>避難後支援団体を立ち上げた女性</u></p> <p>○男性は消防団で不在、自発的に女性が食事の準備を行った。(2～3日)</p> <p>○自分の食事が必要という理由から炊出しを始め、団体の活動につなげている。</p> <p><u>避難所運営を担った3人の女性</u></p> <p>○道路が寸断され、行政職員がほとんどいない中で、指示も、権限もない中で、手探り状態で食事の準備を始めたことから運営に携わることとなった。</p> <p>○自治的にルールを作って避難所運営を行った。</p>
<p>H30. 10. 12</p>	<p>西予市野村小学校で避難所運営について電話で聞き取り (西予市役所野村支所)</p>	<p>・野村小学校は最初から最後まで行政主導で運営された。熊本市や横浜市から派遣された職員のアドバイスを受けながら実施した。</p>